

第2回ミュージアム・エドゥケーター研修 コミュニケーションで起きる学び

2012/09/27/東京都美術館




京都大学総合博物館
大野照文



京大総合博物館のオリジナル学習プログラム

開発年度	プログラム名称	対象	開発教材
H14	「三葉虫を調べよう」 観察請求→推論→確かめ 自己肯定	乳幼児を除く	パワーポイント・ミニブック
H15	「カイテ ミル カイ」 (二枚貝を調べよう) 観察→推論→確かめ 自己肯定	小学5年生以上	パワーポイント・ミニブック
H16~H17	「貝体新書」 体験→推論→討論→確かめ 自己肯定・協調	おとな	パワーポイント・ミニブック・書込み用カード・二枚貝布製模型・二枚貝開閉模型
H18~H19	「サワツテ ミル カイ」 体験+触察 推論・討論 自己肯定	視覚障害者 (視覚覚醒書者)	触察用二枚貝模型(バーガーズ、ミニちゃん)・紙製二枚貝模型







受信機と受信機

- ハイビジョン放送もアナログ・テレビには無意味
- 耳をとぎすましながら丁寧に廻して、お目当ての番組にラジオのダイヤルを合わせたときの感動
- 何より鉱石ラジオからハイビジョン・テレビに

ヒトは成長できる

だから、博物館は自分で好奇心スイッチを入れることができる

能動的学習者

になるお手伝い

能動的学びの起こるとき

史料を一語一語読み解く中で、それまで無数の点として存在していたものが、ある日突然、線でつながり、一つの形になってあらわれる瞬間を経験し、息苦しいような興奮をおぼえました。

日本史の研究を続けたい、そのためにはどうしたらいいのか。 修士論文を書き上げた頃、やっと真剣に考えるようになりました。



岩崎奈緒子(総合博物館・教授)

開発には外部評価を徹底的に取り入れる

利用者の声は開発者の心の拠り所

- 実際の利用者の反応という歴然とした事実
- 個人的印象・独断・思いこみを修正
- チーム全員が共通の認識・理解を持てる
- 事業の有効性を館内・館外へアピール




七転八倒の生みの苦しみ

「三葉虫を調べよう」から6年越し。
モチーフが変わり、利用者対象が変わると・・・
暗中模索、試行錯誤の繰り返し。

**我々開発メンバー自身が“生涯学習者”
= Learner**

■ 利用者の学びの様子を通して、利用者と共に“開発者が学ぶ”

「博物館での学び」とは (昨日の佐伯先生)

- 「勉強」するところではない。
- 「見方・わかり方」の枠組み(スキーマ)を獲得する一方、それに捕らわれることの危険性に注意せよ。
- ナマの世界で動き、かかわり、対話すること。
 - 他者との対話だけでなく、**自己内対話**が重要。
 - **対象に「なってみる」**ことによる理解(発見)。
 - YOU的他者との出会いをつくる。
 - 何らかの**実践共同体**に参加する。
 - **ナニモノカにあこがれ、「感染」する場を提供。**

コミュニケーションで起こす学び

サイエンスの様々な局面で起こるコミュニケーションは、自分と世界、ヒト、そして自分自身とのつながりを深める。

来館者の自由な学びをサポートするために博物館ができること

デヴィッドアンダーソン氏
2002年1月博物館教育国際シンポジウム@みんなばく

- 1) **まず利用者を知ること**
- 2) **事業を長期間にわたって提供することに献身・傾注すること**
- 3) **常に事業評価を繰り返し、改善をすること**
- 4) **アドバイスを求めることをためらわないこと**
- 5) **いろいろな種類のアクティビティーを用意すること**
- 6) **ワーキングパートナーシップを作ること**
- 7) **私たち自身が生涯学習者であること**

参考: 国立民族学博物館博物館教育国際シンポジウム自由な学びを支援するには～英米の博物館事例に探る～講演記録より

博物館で学びの起こるとき

(写真省略)

- 発見している自分を発見してうっとり

博物館で学びの起こるとき

(写真省略)

こんな推理できてしまったの～～

用意周到→参加者大満足 (教材パッケージ)

シナリオブック・
パワーポイント

補助教材・
ふり返し用冊子

Hausenの美的発達段階

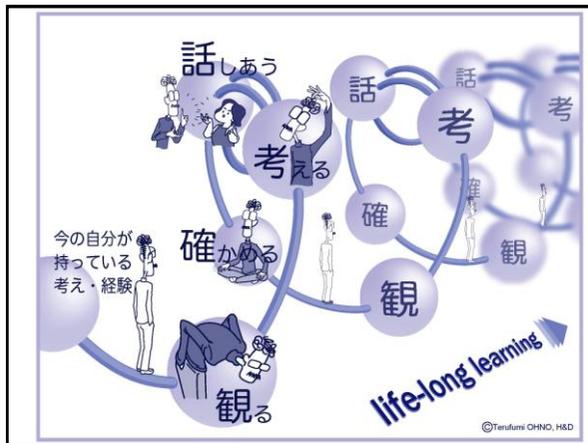
1. 説明の段階: 知っていることに基づく評価
2. 構成の段階: 既存の枠組みに基づく評価
3. 分類の段階: 分析の始まり
4. 解釈の段階: 作品の意味を読み解く
5. 再創造の段階: より普遍的世界と自分とのつながりの構築

学習者の成長

「京都大学が私を人間扱ってくれた。」



「博物館は展示物と会話(対話)してなんぼ」
 「学びなんて難しいんや。楽しんだらそれが学びなんや。」
 「会話できるようになるまであそべ」



総合博物館プログラム開発チーム

- 大野照文
- 染川香澄
- たけうちかおる
- 西谷克司
- 広瀬浩二郎
- 井島真知
- 中川千種
- さいとうまき
- 織谷仁美
- 小原千夏
- 黒岩啓子
- 竹島さや香